

透析用剤溶解装置内部におけるファン付 HEPA フィルタユニットの使用経験

上尾中央腎クリニック¹⁾

○島崎 沙由香¹⁾, 村山 真大¹⁾, 高橋 正樹¹⁾, 太田 恵¹⁾, 佐藤 典明¹⁾, 渡邊 ますみ¹⁾,
遠藤 清文¹⁾, 吉江 祐¹⁾

【目的】透析液の管理基準達成の為に、最終透析液の検査だけでなく各工程での環境管理、及び品質管理も重要であると考え。今回、透析用剤溶解装置 DAD-50(日機装社製)内を陽圧に保つファン付 HEPA フィルタユニット(FFU)を設置する機会を得た為、落下細菌数を調べるにより環境改善に繋がるかを検討した。

【方法】FFU の ON/OFF 時それぞれに DAD-50 内の薬剤ストッカ部、及び DAD-50 外の FFU 脇に培地を置き、通常業務を想定し前面扉を開け、5 分間薬剤ボトルの補充作業を行い 4 時間放置後、37℃にて 3 日間培養しコロニー数をカウントした。

【結果】FFU の OFF 時にはほとんどの培地上にコロニーが確認されたが、ON 時にはほぼ検出されなかった。

【結語】FFU の使用により装置内部を陽圧に保つ事は細菌の侵入を防ぐ効果があり、環境改善に繋がると考える。今回の結果を活かして最終透析液のみならず、環境のクリーン化にも努めていきたい。